



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第24号 (H23.11.18)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 前田 哲司

しつ じつ ごう けん
質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



車イス野球 中武裕之さんからのお礼の手紙

車椅子に乗ったままボールを打ち、走り、守る「車椅子野球」を10月15日(土)に附属中2年生が体験しましたが、子供たちはその感想文をお礼にかえて中武さんに送りました。中武さんは感想文をいただけるとは思ってもよらず、大変感激されたようです。早速中武さんからお礼の手紙が来ましたので、保護者の皆様にもご紹介させていただきます。



10月15日はお休みに関わらず車椅子野球と一緒にプレーしていただきありがとうございました。私たちも楽しくプレーすることができ、楽しい時間となりました。ルール説明等がうまく話すことができず申し訳なく思っています。

さて、先日、都城市の社会福祉協議会の方より郵送で、私の手元に皆様書いてくださった感想文が届きました。そこで、早速読まさせていただきました。車椅子の操作が難しいということをほとんどの方が書いていましたが、今回の体験で感じたことを忘れないでいただけたとうれしいです。

なぜかという、将来、おじいさんやおばあさんの車椅子を押したり、医療や福祉の分野で仕事をしたいと希望している人がいっしょにいれば、体の不自由な方と接する機会が多いと思います。車椅子に乗った経験があれば、その時の気持ちを思い出すことができますが、乗ったことがなければ、想像することしかできないからです。経験をするということは共感したり、相手の気持ちに沿った言葉をかけたりすることが可能ではないかと思います。加えて、身近なところでいえば勉強で苦手な教科を少し克服したとか、部活動で辛いことや苦しいこと、楽しいことの1つ1つの経験を通じて感じたことは知識となったり、自分自身を支えたりします。

私の夢は野球選手になることだったので、その為にリハビリをしましたが歩くことはできず、リハビリに取り組んだことを無駄だ感じていましたが、役にたった出来事がありました。それは、小学生の時はお風呂の中に入る時は自分で足をあげることができないので父に抱きかかえてもらってましたが、中学生のころになると足をあげられるようになり、お風呂に入れるようになりました。野球とは無関係ですが、日常生活の中でリハビリの成果がでました。このような体験を通じて頑張ってリハビリをしたことを無駄だと思わず心の中で少しですが認めるようになっていきました。最後に、これから、日ごとに気温が下がっていきますので体調には十分気をつけて、勉強や部活動に取り組んで楽しい学校生活を過ごしてくださいね。この度は本当にありがとうございました。

車椅子野球普及委員会 中武 裕之



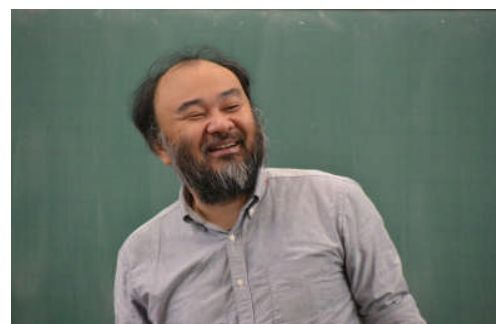
科学の謎に迫ろう！

出前授業で多くの大学の先生方に来ていただきました。

■ 宮崎大学教育文化学部 山北 聡 先生

講義テーマ「九州の火山活動」 11月4日(金曜日)

〇～ちょうど今年の1月に新燃岳が噴火して、こんな経験は初めてだったので、全く知識がありませんでした。だからテレビで火山の噴火のことが話されていても、今いち分からないことがよくありました。でも今日はスクリーンを使うだけのシンプルな講演だったのにも関わらず、すごく分かりやすい講演だったと思います。私が1番心に残ったのは最後の「死都日本」の朗読です。今まではあんなのありえないと思っていたけど、講演で九州では2万年から数千年の間に1回の頻度



で大きな噴火が起きているとおっしゃったので、噴火する可能性は低いものの、今おこるかもしれないと思うと恐ろしかったです。本の中では都城盆地に高さ100m堆積するとおっしゃっていたので、10分で都城盆地を抜け出すことができるのかなと考えたりしました。本も読んでみたくなりました。

■ 南九州大学環境園芸学部 竹内 真一 先生

講義テーマ「水と緑の海外紀行」 11月11日（金曜日）

○～まずビオトープについてです。私は、身の回りにビオトープというものがなくて、あまり知りませんでした。ビオトープは、生き物が住むために大切な場所なのだと知りました。私の住んでいるところは、いかなのでたくさんの生き物がいます。そういうふうに、生き物にとって住みよい環境を都会にも作っているのだと思います。生き物が住みよい環境を作るのも壊すのも人間だから、私は、住みよい環境を作ってあげたいです。～水についてです。私たちは水に恵まれた環境で生活しています。しかし、外国には水がないところがあり、水の取り合いで「争い」も起こったりするのだと知り、水がとても大切であると実感しました。だから今までの生活を見直し、「節水」に努めたいです。

■ 宮崎大学教育文化学部 作田 俊美 先生

講義テーマ「光のふしぎ」「物理学者のおもしろさ」

11月10日（木曜日）

○今回の授業は実験があったりして、とても楽しかったです。偏光板を使った実験はきれいでした。いろんな色に光ったり、回したりすると光る場所が変わったりして、不思議だな、すごいなと思いました。物理学者の人たちの話を聞いたときに、朝永先生の言葉がとても心に残りました。不思議に思うことそれは芽で、観察して確かめ考えることそれは茎で、謎が解けることそれは花だと言うことです。とても分かりやすいたとえだなと思いました。そして、私も花を咲かすことができるようにがんばろうと思いました。他にノーベル賞をとった益川先生と小林先生の話ではなるほどと思いました。性格が対照的だからこそ、良かったということです。私が今まで仲の良かった友達は私とは反対の性格の人ばかりでした。きっと自分と違うところを求めているからだろうなと思いました。今回興味を持ったことを調べて、もっとくわしく、いろんなことを知っていきたいなと思いました。



— 研心の時間（よのなか科）「高齢者福祉について考えよう！」 —

11月17日によのなか科の授業を教頭が実施しました。テーマは「高齢者福祉について考えよう！」で保護者も交えての授業でした。特に授業の中で「自分の親の体が不自由になった場合、施設に入れるべきである」というテーマでディベートを行いました。保護者と子供たちが価値観をぶつける場面で活発な意見が多く出ました。もともとよのなか科の授業は、社会の出来事をテーマに「ものごとの本質」を考える授業です。他教科との違いは、正解は一つではなく、課題を大人と一緒に考える授業です。そして、授業の最後にテーマに関係しているゲスト（専門家）に来ていただきポイントを話してもらうことになります。まさに本物に出会える時間です。



堀之内さん、高橋さん、待木さん、仲道さん、奥田さん、益山さん、の保護者の方々に感謝です！